

基調講演



【神山氏】

はじめに「盛岡城の魅力」と題して、日本城郭史学会盛岡支部長であり、盛岡城復元調査アドバイザーを務めていただいている神山仁氏にご講演いただきました。かつて盛岡城に訪れたアメリカの冒険家や天守の鯨のエピソードなども交え

たわかりやすいお話で、参加者のみなさまもとても興味深く聞いていました。

次に「盛岡城跡整備の現在地」と題して、文化庁の市原富士夫主任文化財調査官からご講演い



【市原氏】

ただきました。盛岡城跡の整備について、保存面と活用面の二つの観点から全国的な例なども交えてお話があり、大きな視点からの多面的な内容に、学びを得る方も多かったようです。



取組報告

これまで盛岡城復元調査推進室等で行ってきた取組について、当室の似内文化財専門員からご報告しました。報告では、取組の現状に加え、盛岡城跡を整備することの意義や効果についてもお伝えし、アンケートによると、たくさんの参加者のみなさまに、取組の趣旨や現状について理解を深めていただけたようです。数々の貴重なご意見ありがとうございました。今後の取組の糧として大切にしていきたいです。



トークセッション

基調講演者のお二人と(株)久慈設計の小川惇氏、岩手大学学生の浅野奈美氏をパネリストに迎え、盛岡城の持つ価値と可能性などをテーマに、トークセッションを行いました。旧盛岡藩士桑田の戸澤武美氏による進行のもと、パネリストのみなさまには多岐にわたるご発言をいただき、参加者からは、いろいろな立場で、様々な角度から盛岡城の話を伺えて良かった、という感想を多くいただきました。



【会場入口：パネル展の様子】

当日は、約二〇〇名の方にご参加いただき、南の家当主の南部利文氏にもご来場いただきました。このシンポジウムで、より深く盛岡城を知ること、その未来に思いを巡らす時間につながっていれば幸いです。



盛岡城小噺

第10話

#失われた盛岡城

現在の盛岡城跡には、往時を彷彿とさせる建物がほとんど残っていません。天守が建っていた場所はどこだったのか、在りし日の城内はどんな風景だったのか、その歴史的な部分については、知らない人の方が多いかもしれません。

盛岡城内の数々の建物は、近世から近代への時代の移り変わりとともに失われることとなりました。明治維新による幕藩体制の崩壊により、諸大名は領地と領民を天皇に返還し、盛岡城も新政府の直轄地となります。戦争に敗れた南部氏は一時白石藩知事に任命されましたが、献金を条件に盛岡藩知事に復帰が認められ、盛岡城は再び13万石の居城となり、その二ノ丸には藩庁が開庁されます。

ところが、多額の献金や減封などにより、藩財政はすぐに破綻状態となり、当時の藩主であった南部利恭は藩知事を辞職。全国に先駆けて廃藩置県を願い出て、政府により盛岡県が設置されます。当初は二ノ丸に残されていた県庁機能も、政務の多様化に伴う敷地不足や老朽化を理由に、明治4(1871)年には現在の岩手県庁の地に移されました。

その後、全国289の城館について廃城が検討される中、盛岡城は44の存城の一つに選定されます。しかし、名実ともに城主を失い荒城と化していた城の維持は困難であると判断され、明治7(1874)年に、一般入札により約2,700貫文で払い下げとなり、城内建物等の大半が撤去されました。

こうして盛岡城のかつての姿は失われ、年月の経過とともに、盛岡城のある風景は、そこに暮らす人々の日常から静かに姿を消すこととなりました。

盛岡城復元調査推進室の取組の詳細は、市ホームページに掲載しています。盛岡城に由来があると伝わる資料や建物等に関する情報などありましたら、盛岡城復元調査推進室(019-613-7956)まで、情報提供をお願いします。

